

MQSeries® Everyplace for Multiplatforms



**最初にお読みください**

バージョン 1.2



MQSeries® Everyplace for Multiplatforms



**最初にお読みください**

バージョン 1.2

本書は、MQSeries Everyplace for Multiplatforms バージョン 1.2 に適用されます。また、特に断りがない限り、後続のすべてのリリースおよび改訂レベルにも適用されます。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

原 典： GC34-5862-02  
MQSeries® Everyplace for Multiplatforms  
Read Me First  
Version 1.2

発 行： 日本アイ・ピー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2001.6

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体\*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注\* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、  
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 2001. All rights reserved.

Translation: © Copyright IBM Japan 2001

---

## まずお読みください

本書には、MQSeries Everyplace for Multiplatforms バージョン 1.2 (本書では、MQSeries Everyplace とする) のインストール方法、およびこのツールキットを使用する前に読んでおくべき重要な情報が記載されています。

---

### ライセンスについての注意

MQSeries Everyplace for Multiplatforms バージョン 1.2 ツールキットにより、開発者は MQSeries Everyplace アプリケーションを作成し、それを実行するための環境を作成することができます。

実稼働環境で本製品と本製品を使用するアプリケーションを展開する前に、ライセンスを持っていることを確認してください。

指定されたサーバー・プラットフォームで MQSeries Everyplace を使用するには (コード開発とテスト以外の目的で)、各マシンとマシン・アップグレードでこのプログラムを使用するためのライセンス交付を受けるための、*capacity-unit 使用許可* (ライセンス証書に記録され、公表された *capacity-unit* と *pricing group table* に従って MQSeries Everyplace の使用をサポートするために有効) がなければなりません。

指定されたクライアント・プラットフォームでこの製品を使用するには (コード開発とテスト以外の目的で)、*device platform 使用許可* (ライセンス証書に記録され MQSeries Everyplace を使用するのに有効である) が必要です。これらのライセンスはユーザーに、MQSeries Everyplace Bridge を使用する権利を与えたり、IBM が公表している MQSeries Everyplace *pricing group list* で指定されていて、以下の URL を介して Web で使用可能なサーバー・プラットフォームで実行する権利を与えるものではありません。

これらの制限について詳しくは、<http://www.ibm.com/software/mqseries> を参照してください。



---

## 変更の概要

このセクションでは、「MQSeries Everyplace for Multiplatforms 最初にお読みください」のこの版で加えられた変更点について説明します。本書の以前の版から変更されている内容には、左側に縦線で印が付けられています。

---

### 本版の変更点 (GC88-8656-02)

テキストの編集上の訂正と改善に加え、以下の情報が変更または追加されました。

- 新規のプラットフォーム用のインストール情報が追加されました。
- ライセンス情報が変更されました
- サポートしているプラットフォーム情報が更新されました

---

### 前版に対する変更点 (GC88-8656-01)

テキストの編集上の訂正と改善に加え、以下の情報が追加されました。

- MQSeries-Bridge を使用している場合は、Java 1.2 が前提条件

変更点



---

## 第1章 インストール・プロシージャ

これらインストール・プロシージャにより、MQSeries Everyplace アプリケーションの開発に使用するマシン上に、MQSeries Everyplace をインストールすることができます。このリリースでは、MQSeries Everyplace のパーベイシブ 装置 (各種携帯型端末) への展開は、アプリケーションおよびソリューション提供者の責任で行っていただきます。

MQSeries Everyplace のインストール・プログラムは自己抽出型の Java® クラス・ファイルであり、ご使用のコンピューターの作業ディレクトリーにコピーして実行する必要があります。インストール・プログラムは、必要な作業ファイルを抽出して作業ディレクトリーに入れ、MQSeries Everyplace ファイルをコンピューターにコピーし、さらに作業ファイルをクリーンアップします。その後インストール・プログラムを削除しても構いません。

---

### ソフトウェア環境

#### サポートしているプラットフォーム

MQSeries Everyplace は特定のサーバー・プラットフォームに直接インストールすることのみ可能です。他のプラットフォームにプログラムと Java クラスを転送するには、適切なダウンロードまたはファイル転送プログラム (提供されていない) を使用しなければなりません。

#### インストール・サポートで直接サポートされるプラットフォーム

次のプラットフォームはこの製品を組み込みツールを使用して直接インストールすることができます。

- Windows NT® バージョン 4
- Windows® 2000
- Windows 95/98/ME
- AIX バージョン 4.3
- Sun Solaris バージョン 7 または 8
- Linux Intel Kernel 2.2 (ZIP ファイルを使用してインストールされた)
- HP-UX 11.0 (ZIP ファイルを使用してインストールされた)

#### インストール・サポートなしで直接サポートされるプラットフォーム

次のプラットフォームは MQSeries Everyplace のテストと開発用にサポートされますが、他のプラットフォームからのファイル転送によるインストールのみをサポートします。

- HP Jornada 装置 (モデル 680 または 820) で実行している WinCE 2.1

- Psion 装置上で実行している EPOC 32 ビット リリース 5(5MX Pro または NetBook)
- Palm V および IBM Workpad C3 で実行している PalmOS の V3.0 以降
- Java を使用する IBM 4690 OS

#### 間接的にサポートされるプラットフォーム

次のプラットフォームを使用できますが、直接サポートされるプラットフォームの Java 環境と完全に互換性のある場合のみサポートされます。上記のリストされたテスト済みプラットフォームのうちの 1 つでのみ問題を調査することができます。

- Kernel 2.2 を実行している zSeries の Linux
- iSeries
- OS/2
- EPOC (上記リスト以外の装置上)
- WinCE (上記リスト以外の装置上)
- QNX Neutrino
- Pocket PC
- PalmOS (上記リスト以外の装置上)
- 『Java 環境』にリストされた Java 環境の 1 つを実行している他のプラットフォーム

## Java 環境

次の Java 実行時環境のいずれかが必要です。

- IBM Java 実行時 (JVM 1.3 以降)、Java Micro Edition を含む
- Sun Java (V1.1 以降) が保証されている Java<sup>1</sup>

**注:** Java でサービスを使用できるようにするには、次のプラットフォームのいずれか 1 つでテストされたものと完全に互換性のある必要があります。

- Windows CE オペレーティング・システムを実行している HP Jornada デバイス (モデル 680 または 820)
- EPOC オペレーティング・システムを実行している Psion 装置 (5MX Pro または NetBook)
- 上記の直接サポートされるリストのサーバー・プラットフォームの 1 つ

Java の MQSeries クラスが MQSeries-Bridge 操作で必要です。Java の MQSeries クラスのそのバージョンを実行するのに必要な Java のレベルを検査してください。

---

1. JIT (Just In Time) コンパイラーが使用できる Sun の JVM でインストーラーを実行すると問題を体験することがあります。Sun JVM をご使用になる場合は、コマンド `java -Djava.compiler=NONE install` を使用して JIT コンパイラーを使用不可にすることを勧めます。

## ストレージ要件

次のテーブルは、MQSeries Everyplace のインストールを実行するのに必要なストレージを示しています。

表 1. インストールを実行するのに必要なストレージ

オペレーティング・システム	必要なストレージ
Windows NT (ファイル・システム = NTFS)	26Mb
AIX	29Mb
Solaris	27Mb

次のテーブルは、インストール後に MQSeries Everyplace を使用するのに必要なストレージを示しています。

表 2. MQSeries Everyplace に必要なストレージ

オペレーティング・システム	必要なストレージ
Windows NT (ファイル・システム = NTFS)	9.5Mb
AIX	11Mb
Solaris	10Mb

---

## Windows、AIX、および Solaris でのインストール・ステップ

インストール中に、画面上の「戻る」ボタンをクリックすれば、いつでも直前の画面に戻って、情報の再検討や変更を行うことができます。インストールの手順を中止してインストールを取り消す場合は、任意の画面で「キャンセル」ボタンをクリックしてください。

以下のとおりに MQSeries Everyplace をインストールします。

1. 製品 CD を CD-ROM ドライブに入れます。
2. インストール・プログラム *install.class* を、ご使用のコンピューターの Java classpath に含まれている作業ディレクトリーにコピーします。
3. その作業ディレクトリーに移動し、ご使用のコンピューターの Java コマンドを使用してインストール・プログラムを実行します。通常、このコマンドは `java` または `jre` です。以下に例を示します。

### Windows の場合

```
cd <working directory>
set classpath=.;%classpath%
java install
```

## AIX および Solaris の場合

```
cd <working directory>
CLASSPATH=.:$CLASSPATH
export CLASSPATH
java install
```

4. "ウェルカム" 画面が表示されたら、MQSeries Everyplace プログラムをインストールすることを、「次へ」ボタンをクリックすることにより確認し、インストールを続けます。
5. 次の画面には、ライセンスの合意事項が表示されます。これを読んだ上で、ライセンスの条項を受け入れるならば「はい」ボタンをクリックしてください。ライセンスの条項を受け入れられない場合は、「いいえ」ボタンをクリックしてインストールを中止します。
6. 次の画面では、MQSeries Everyplace ファイルのコピー先となるデフォルトのディレクトリ位置が示されます。この位置を変更したい場合は、「参照」ボタンをクリックして、ディレクトリ・リストから新しいディレクトリを選んでください。「次へ」ボタンをクリックしてインストールを続けます。
7. インストール・プログラムはいくつかのショートカットを "スタート・メニュー" フォルダーに作成しますが、次の画面ではこのフォルダーのデフォルト名が示されます。デフォルト名に上書きすることにより、この名前を変更することもできます。「次へ」ボタンをクリックして先へ進みます。

**注:** この画面は、AIX と Solaris では表示されません。

8. 次の画面では、インストール位置と、ショートカットの "スタート・メニュー" フォルダー (Windows) の名前を示しています。情報が正しいことを確認の上、「次へ」をクリックして続行します。情報が正しくない場合は、「戻る」ボタンをクリックし、必要に応じてステップ 6 または 7 を繰り返してください。
9. これで、MQSeries Everyplace ファイルがコンピューターにコピーされます。画面の右下隅にあるコピー進行状況ボックスで「キャンセル」ボタンをクリックすれば、コピー中にインストールを取り消すことができます。
10. コピーが完了したら、画面中央にダイアログ・ボックスが表示され、ファイルが正常に転送されたことを確認できます。「OK」ボタンをクリックして、最後のインストール画面に進みます。
11. 最後の画面では、インストールを終了する前に、Readme ファイルを閲覧することができます。Readme ファイルはコンピューターのインストール・ディレクトリにコピーされるので、後で参照することもできます。インストールを終了するには、「完了」ボタンをクリックしてください。

---

## 代替インストール・ステップ

MQSeries Everyplace クラスは zip ファイルとしても提供されます。このファイルは、グラフィカル・インストーラーが適切でないまたはサポートされていないところで、装置に MQSeries Everyplace をインストールするために使用することができます。UNIX を基本とするシステム (Linux および HP/UX など) で、フォルダーを作成し、それに適切な zip ファイルをコピーします。そしてクラス・ファイルを抽出するために unzip ユーティリティを使用してください。以下に例を示します。

```
mkdir mqe
cp /cdrom/unixinst.zip mqe
cd mqe
unzip unixinst.zip
```

クラス・ファイルが抽出されると、MQSeries Everyplace プログラムを実行するためにユーザーの環境を構成する必要があります。詳細は、「*MQSeries Everyplace for Multiplatforms* プログラミング・ガイド」を参照してください。

---

## インストール・コンポーネント

MQSeries Everyplace ツールキットの正常なインストールの後には、以下の Java コードベース・コンポーネントがコンピューターに入っています。

### MQSeries Everyplace Java クラス

すべての MQSeries Everyplace 機能をインプリメントするクラスのセットです。これらのクラスのサブセットにより、装置用のサブセットや、サーバー用のサブセットといった、各種の MQSeries Everyplace 構成を提供することができます。

### ヘルパー・クラス

いくつかの一般に使用される機能をインプリメントする基本クラスから派生したクラスのセットです。

### サンプル・クラス

多くの MQSeries Everyplace の機能の利用法を例示するクラスのセットです。これらのクラスのソース・コードも提供されています。

### ユーティリティ

MQSeries Everyplace のプログラミングと管理を支援するツールです。

### MQSeries Everyplace 解説書

以下の資料は Adobe Acrobat の読み取り可能な形式で提供されています。

### MQSeries Everyplace for Multiplatforms 紹介

この資料は MQSeries Everyplace の一般的な紹介であり、製品概念や、MQSeries Everyplace と他の MQSeries 製品との関係を網羅しています。ファイル名は hmq8ac02\_MQSeriesEveryplace\_Introduction.pdf です。

この資料のハードコピー版がユーザーの製品ボックスにも提供されています。

#### **MQSeries Everyplace for Multiplatforms プログラミング・ガイド**

この資料には、MQSeries Everyplace アプリケーションを書いたり、システムを管理したりするためのガイダンスと手順情報が記載されています。ファイル名は hmq8a102\_MQSeriesEveryplace\_ProgrammingGuide.pdf です。

#### **MQSeries Everyplace for Multiplatforms プログラミング・リファレンス**

この資料には、MQSeries Everyplace アプリケーション・プログラミング・インターフェース (API) の詳細記述が記載されています。ファイル名は hmq8az02\_MQSeriesEveryplace\_ProgrammingReference.pdf です。

#### **注:**

1. これらの資料の最新版は、MQSeries ライブラリーの Web サイト (<http://www.ibm.com/software/mqseries/library/>) の資料セクションで使用できます。
2. Adobe Acrobat Reader を入手する必要がある場合や、Acrobat Reader がサポートされているプラットフォームに関する最新情報を得たい場合は、Adobe Systems Inc. の Web サイト (<http://www.adobe.co.jp/>) にアクセスしてください。

---

## **HTML 形式の資料**

MQSeries Everyplace 資料は、製品 CD の .zip ファイルとして HTML 形式でも提供されます。これらのファイルは製品のインストールには組み込まれませんが、個別にダウンロードして unzip することができます。資料の HTML 版をユーザーのマシンでローカルに表示することができます。

**注:** これらの資料の最新版は、MQSeries ライブラリーの Web サイト (<http://www.ibm.com/software/mqseries/library/>) の資料セクションで使用できません。

---

## **Web 上の MQSeries Everyplace コンポーネント**

これらの MQSeries Everyplace コンポーネントは製品 CD-ROM では送られてきませんが、MQSeries Everyplace の Web サイト (<http://www.ibm.com/software/ts/mqseries/everyplace>) から無料でダウンロードできる SupportPacs として使用できます。これらは、ライセンス交付を受けた製品に基本的な補足であり、以下のものを含んでいます。

### **EAP1: MQSeries Everyplace - Palm OS のための装置コード**

Palm OS での MQSeries Everyplace アプリケーション開発用の C プログラミング言語サポート

### **EP01: MQSeries Everyplace - パフォーマンス報告書**

さまざまなクライアント・プラットフォームでの MQSeries Everyplace パフォーマンスを分析します

### **ES01: MQSeries Everyplace - 管理ツール (MQeExplorer v1.0)**

MQSeries Everyplace キュー・マネージャーの簡単なグラフィカル管理ができるようにしているすべての Java プラットフォーム用の汎用ツール

### **ES02: MQSeries Everyplace - エクスプローラー (MQe\_Explorer v1.1)**

オペレーティング・システムの Microsoft Windows の範囲のサポートを専用に開発された MQSeries Everyplace 管理ツール

### **ED01: MQSeries Everyplace - 入門**

キュー・マネージャーを作成し立ち上げるためのアプリケーション例 (Postcard) とツール。MQSeries メッセージングを使用したメッセージング・インターオペラビリティを紹介しています。

利用できるコンポーネントとダウンロード手順の詳細については、Web ページに記載されています。

---

## **MQSeries Everyplace のアンインストール**

コンピューターから MQSeries Everyplace を削除する方法は、実行しているオペレーティング・システムによって異なります。ご使用のオペレーティング・システムに関する指示に従ってください。

### **Windows の場合**

以下のどちらかの方法により、Windows システムから MQSeries Everyplace をアンインストールすることができます。

#### **スタート・フォルダーのショートカットを使用する**

MQSeries Everyplace のインストールの際に、「スタートアップ」メニューにフォルダーが作成されます。そのフォルダーのデフォルト名は "IBM MQSeries Everyplace" ですが、インストール中に変更することもできます。そのフォルダーには "Uninstall" というショートカットが含まれています。このショートカットをクリックしてアンインストール・プログラムを立ち上げ、アンインストールが完了したことをプログラムが示すまで、画面のプロンプトや指示に従ってください。

#### **Windows のコントロール パネルを使用する**

標準的な Windows のコントロール パネルを使用して MQSeries Everyplace をアンインストールすることもできます。

1. 「コントロール パネル」ウィンドウを開きます。例:「スタート」->「設定」->「コントロール パネル」
2. 「アプリケーションの追加と削除」アイコンをダブルクリックします。
3. 結果として表示される「アプリケーションの追加と削除」ダイアログ・ボックスで、プログラムのリストをスクロールして "IBM MQSeries Everyplace" を見つけ、それをクリックして選択します。
4. 「アプリケーションの追加と削除」 ボタンをクリックしてアンインストール・プログラムを開始します。

アンインストールが完了したことをプログラムが示すまで、画面のプロンプトや指示に従ってください。

## AIX および Solaris の場合

以下のいずれかの方法により、コンピューターから MQSeries Everyplace をアンインストールすることができます。

### juninst を使用する

MQSeries Everyplace がコンピューターにインストールされると、このプログラムのアンインストールに使用する **juninst** というプログラムもインストールされます。

MQSeries Everyplace をアンインストールする場合には、このコマンドを使用します。

```
juninst <MQe directory>/UnInst
```

ここで、<MQe directory> は MQSeries Everyplace をインストールしたディレクトリーです。これは、デフォルトでは /usr/MQe ですが、このディレクトリーはインストールの最中に変更することができます。

### AIX で SMIT を使用する

標準の AIX システム管理ツールである **SMIT** を使用して、

"IBM.MQSeries.Everyplace.Base" というコンポーネントをアンインストールします。

### Solaris で pkgrm を使用する

標準の Solaris ツールである **pkginfo** と **pkgrm** を、以下のように使用します。

1. **pkginfo** ツールを使用して、インストールされているコンポーネントの名前を検索します。この方法については、"IBM MQSeries Everyplace - Base" に説明されています。この名前は itjnnnnnn という形式です。ここで、nnnnnn は 000001 などの数値です。
2. **pkgrm** を使用してステップ 1 で検出したインストール済みコンポーネントを削除するには、次のようにコマンドを入力します。

```
pkgrm itjnnnnnn
```



---

## MQSeries Everyplace へのメンテナンスの適用

MQSeries Everyplace に対してメンテナンス更新を適用するには、更新ファイルの指示に従ってください。

メンテナンス更新の詳細と、その可用性については、MQSeries ファミリー製品の Web ページ (<http://www.software.ibm.com/ts/mqseries/>) を参照してください。

|



---

## 第2章 使用開始にあたって

このセクションでは、MQSeries Everyplace ツールキットを使用開始するための情報を提供します。

---

### Readme ファイル

先へ進む前に、Readme ファイルを必ずお読みください。Readme ファイルには、CD-ROM からコピーした MQSeries Everyplace ファイルに関する最新の情報が記載されています。Readme に追加のインストール手順が記されていれば、すべて実行してください。

---

### 初期システムの作成

「*MQSeries Everyplace for Multiplatforms 紹介*」には「MQSeries Everyplace 入門」という章が含まれています。この章の「MQSeries Everyplace の使用法」という章にこの製品を使用する別のステージが説明されており、「経験の紹介」セクションでは、MQSeries Everyplace Explorer システムの立ち上げおよび迅速で簡単な実行についての情報が記載されています。

---

### 独自のプログラムの作成

初期システムを変更し、独自のプログラムを作成する準備が整った場合は、「*MQSeries Everyplace for Multiplatforms プログラミング・ガイド*」および「*MQSeries Everyplace for Multiplatforms プログラミング・リファレンス*」に記載されている情報をご利用ください。



---

## 第3章 翻訳

バージョン 1.2 では、MQSeries Everyplace の下記のコンポーネントは、英語以外の言語に翻訳されています。

- ミニ証明サーバー グラフィカル・ユーザー・インターフェース
- Example Trace グラフィカル・ユーザー・インターフェース

トレース・メッセージなどの他のコンポーネントは NLS (各国語サポート) 対応になっていますが、まだ翻訳されていません。

---

### 翻訳済みの資料

一部のマニュアルは英語以外の言語に翻訳されています。これらの翻訳文書は MQSeries ライブラリーの Web サイト ([www.ibm.com/software/mqseries/library/](http://www.ibm.com/software/mqseries/library/)) からダウンロードして利用することができます。



## 商標

次のものは、IBM Corporation の米国およびその他の国における商標です。

AIX

MQSeries

Microsoft、Windows、Windows NT、および Windows ロゴは Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標または登録商標です。









部品番号: CT8D1JA

Printed in Japan

GC88-8656-02



日本アイ・ビー・エム株式会社

〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12

(1P) P/N: CT8D1JA

